

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

測定年度	令和5年度	学校コード	F111310102192	設置等組織名	農学部農業生産学科
大学名	東都大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	埼玉県	事業計画名	学部再編による農学部創設プロジェクト

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	①令和5年8月 開設準備委員会設置、学部設置全体計画、企業・教育機関との協力計画を策定 ②令和5年8-9月 沼津市および静岡県と開設についての協力体制の協議、農学部・地域の動向調査 ③令和5年10-12月 企業、農協等関係団体との協力体制構築、学部長選定 ④令和6年4月 開設準備室設立、施設設備計画策定、開設場所土壌調査 ⑤令和6年5月 農学部・地域の受検動向調査 ⑥令和6年8月 教育協力機関連携協議会開催、設計監理業者選定、教員募集開始 ⑦令和6年10月 新キャンパス施設設備整備計画確定、工事業者入札 ⑧令和7年4月 カキ工場策定 ⑨令和7年6月 建物建築確認申請、受験生ニーズアンケート調査実施、インターシップ先確保	①令和5年8月 開設準備委員会設置、学部設置全体計画、企業・教育機関との協力計画を策定 ②令和5年8月-令和6年2月 沼津市および静岡県と開設についての協力体制の協議、農学部・地域の動向調査 ③令和5年10月-令和6年3月 企業、農協等関係団体との協力体制構築、学部長選定 ④令和6年6月 企業、農協等関係団体との協力体制構築（近畿大学視察） ⑤令和6年12月 施設設備整備計画策定（キャンパス候補地現地調査） ⑥令和6年11月-令和7年3月 農学部・地域の動向調査（高校レアリング、埼玉県追加） ⑦令和7年3月 学部長予定者決定 ⑧令和7年3月 開設準備室を設置準備室に改組し深谷キャンパスでの具体的な施設設備整備計画策定開始、教育用園地についてキャンパス内設置の検討並びに深谷市と連携して適切な耕地を探索を開始	R5年度自己評価 【2】計画を十分に実施していない。 学部長候補者の確保に苦慮しており、「③企業、農協等関係団体との協力体制構築、学部長選定」のうち、数名の候補者との面談を行っているが、選定にまで至っていない。引き続き、これまで施設見学や学部の設置構想等に協力していただいた教育機関等に連絡を取りながら、次年度も早期の人材確保に努める。	
			R6年度自己評価 【2】計画を十分に実施していない。 建築費の高騰等により予定していたキャンパス候補地（静岡県沼津）での計画実施が難しくなり新学部校地を再検討した。新学部を既存施設を活用改修し農薬の盛んな深谷キャンパスに設置することで、当初計画通りに管理栄養コースを含む「土かき」のエクスポーを目指す農学部設置が可能となる見込である。令和7年3月理事会で計画変更が承認され、また地域連携を含め埼玉県深谷市の協力も確約された。令和7年3月に農業生産を専門とする学部長候補者も就任が決定し、たにちに農学部設置推進委員会、かキウムワーキンググループが構成された。教室、実習室の整備は新築ではなく既存建物の改修で進め、園地等は市との連携で既存の耕作地を使用できるため、施設設備の準備は計画に沿って行える。令和7年6月に開設準備室を設置し、令和8年3月の認可申請に向け準備を進める。	
フェーズ2 新創し	①令和7年8月 キャンパス用地の整地、新棟、園地整備		○年度自己評価	
認可申請又は届出	令和8年3月 農学部農業生産学科 認可申請予定			
フェーズ1 再開し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	①令和8年4月 教務委員会設置、入試広報委員会設置 既存建物取得・改修 ②令和8年6月 学校説明会開催、スクールバス（路線バス）申請 ③令和8年8月 教員教育研修会（新教育法、評価法講習会）開催 ④令和8年9月 総合型選抜および社会人入試実施 ⑤令和8年10月 学外実習（園地実習、企業）実習担当者研修会開催 ⑥令和8年11月 推薦型入試実施 ⑦令和9年1月 共通試験利用選抜実施、教育研究用機器備品購入 ⑧令和9年2月 新キャンパス整備、校舎建築完了、開校準備、一般選抜入試実施		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	令和9年4月 農学部農業生産学科開設予定（入学定員100名、農学関係）			
フェーズ2 再開し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	①令和9年4月 開校式、入学式（以降毎年実施） ②令和9年5月 新入生の志望動機、入学後の希望調査（以降毎年実施） ③令和9年10月 関連機関（行政、企業、JA、教育機関）との連携協議会開催（以降毎年実施）、地元、地域との交流を兼ねた学園祭開催（以降毎年実施） ④令和10年3月 教育改善のための外部評価委員会、教学監査（以降毎年実施） ⑤令和11年6月 自己点検評価ならびに教育成果調査（以降毎年実施） ⑥令和13年3月 卒業式（以降毎年実施）、卒業生・卒業生父母満足度調査（以降毎年実施）		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	令和8年3月 農学部農業生産学科の認可申請とともに既存学科100名の減員に係る届出予定	令和7年4月 管理栄養学部管理栄養学科 募集停止の報告（入学定員60名、家政関係） 令和8年3月 農学部農業生産学科の認可申請とともに既存学科40名の減員に係る届出予定 令和10年4月 管理栄養学部管理栄養学科 募集停止の予定（入学定員60名、家政関係）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東都大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

☒ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

☒ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

☒ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

☒ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

☒ チェック

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている

☒ チェック

確認の対象に該当しない

☐ チェック
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り込む計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った

☒ チェック
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東都大学
-------------	-------	-----	------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	

⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック	

⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
自治体との連携では、沼津市農林農地課、緑地公園課にてインターンシップを行ない農業行政、農地や農業を地域の課題として捉え問題発見と解決のための考え方、シミュレーションの学習機会とする。県農林技術研究所では農学研究、フィールドスタディ研修を行い、先進的農業生産の学習機会とする。地域に根ざした特色ある農業生産の実地学習として、各農協に地域農家における実践学習の仲介を依頼する。東し建設例には、同社が展開するトレフームを含むDX農業実践の研修、教育を依頼する。市民病院では、農作物が医療の中でのように使われるか、健康・医療・長寿にかかわる食品について学ぶ機会となる。東京農業大学とは農業生産学教育について連携する。埼玉工業大学とは情報通信工学、DX技術教育について連携することに加え、本学科卒業生には同校との提携大学院「工学研究科情報システム専攻ヘルスケア科学教育研究分野」（令和6年設置）への進学機会を提供する。また、静岡工科大学自動車大学校と連携し、学生が大型特殊車両・牽引車等農業生産に係る車両運転整備技能並びに免許を取得できる科目を設置する。	自治体との連携について沼津市長、副市長、企画部、総務部、広報課と協議を行い、1）キャンパス予定地の整備に必要な許認可申請、2）近隣の遊休農地情報提供、3）キャンパス内に圃場を作る際の水利権等確認事項の指示、4）開学後に農業行政については学生がインターンシップをできる場の提供、5）近隣農業協同組合への教育協力依頼等について検討し、了解を得た。静岡県との協議では、経済産業部、スポーツ・文化観光部と協議し、キャンパス予定地の教育用農地転用について了解を得た。また農林技術研究所との教育研究連携教育の仲介を依頼した。沼津市民病院とは教育連携を強化した。現在看護学科学生が研修そして就職しているが、今後栄養、給食など農業生産学科に関わる教育連携について協議する。産学連携については、東し建設、大和ハウスが展開する食物工場の情報提供を受けた。今後教育連携について協議する。東都大学との提携による埼玉工業大学工学研究科情報システム専攻ヘルスケア科学教育研究分野は令和6年4月に予定通り開講し、現在3名の大学院生が在籍している。今後農業工学、農業情報工学等の分野での教育研究連携について検討する。静岡工科大学が所有する静岡県自動車学校沼津校とは、農業用車両運転整備技能、関連運転免許教育、さらに農業用ドローン教育について提携することを協議した。また、ヤンマーホールディングス（株）、（株） Kubota、スズキ自動車（株）とは教育用農作業車両の選定について情報提供を受けた。	—

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a. 入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜では、情報を含む文系科目のみの選択による受験も可能として、入学後にリメディアル教育で化学、生物など理系の学習を補完する。総合型選抜、社会人選抜では農業生産への意欲と応募者の特性を評価する。女子学生確保については、女性にも親しい農業生産の教育を充実させ、性差医療と食物、妊娠出産と食品とその生産、美容食品、抗加齢、さらに農業生産者のための健康・実用技法と女子に興味の高い必修および選択科目を設置、リアル企業と提携して農作業の女性用作業服を開発、作業後の清潔のための温泉入浴施設(既存施設を有効活用)を含むヤンバリアユニバーの充実、さらに男女共同参画の校園と教育を行い「農業女子」を育成する。社会人の受け入れには、卒業大学での単位取得、修業年限などを考慮した履修科目の調整、就労しながらの学習の利便性（夜間あるいは休日授業）、修業年限の延長などにより社会人が学位を取得できるための自由度の高い教育プログラムを提供する。さらに多様な入学者の確保について、学内他学科からの編入など、入学後の進路変更にも柔軟に対応する。	本取組として令和5年10月に（株）高等教育総合研究所による「農学部設置に関する基礎調査」を行った。結果、地域の普通高校の卒業生数が今後大幅に減少することが示された。一方で農業専門高校が多く設置されており、卒業生の大学進学率が高くないことも明らかになった。農業専門高校卒業生も教育を受けたいと思える大学にすることで学生確保につながるかと考えられた。 女子学生の志願者を促進するための取組として平成6年5月27日に千葉聖心高等学校と教育連携協定を結んだ。同校は女子校であり連携の中で、女子高生の動向、農業への興味などについて情報を得て志望者確保につなげる。アメニティの充実については、キャンパス予定地に直ちに使用可能な3か所の温泉源泉が確認された。作業服、作業靴について、現在バグニア日本支社、コンパースジャパン社などの学生世代のブランドとの提携を検討している。 社会人入学、他学科からの編入、入学後の進路変更については、本年度から管理栄養学科で栄養士の入学制度、新設の健康科学科で他学科からの編入、進路変更を開始しており、既習科目についての単位認定手帳、単位選択支援など得られた知見を農学部の制度に応用する。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東都大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	大学の総収容定員充足率がR6.5.1時点で77%、R7.5.1時点で75%と減少傾向にある。入学者数はR6年度からR7年度で64名増加したが、卒業生の数が入学者数を上回っているため、引き続き学生確保に努めるとともに、定員未充足率が大きかった管理栄養学部については事前に募集停止を決定して対応した。				
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☐ チェック			
計画通りに進んでいる	☐ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東都大学
-------------	-------	-----	------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック	
⑭	文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☒ チェック
- b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェック
- c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
自治体との連携では、沼津市農林農地課、緑地公園課にてインターンシップを行ない農業行政、農地や農業を地域の課題として捉え問題発見と解決のための考え方、シミュレーションの学修機会とする。県農林技術研究所では農学研究、フィールドスタディ研修を行い、先進的農業生産の学修機会とする。地域に根ざした特色ある農業生産の実地学修として、各農協に地域農家における実践学修の仲介を依頼する。東し建設協会は、同社が展開するトリフェームを含むDX農業実践の研修、教育を依頼する。市民病院では、農作物が医療の中でのように使われるか、健康・医療・長寿にかかわる食品について学ぶ機会となる。東京農業大学とは農業生産学教育について連携する。埼玉工業大学とは情報通信工学、DX技術教育について連携することに加え、本学卒業生には同校との提携大学院「工学研究科情報システム専攻ヘルスケア科学教育研究分野」（令和6年度設置）への進学機会を提供する。また、静岡県自動車大学校と連携し、学生が大型特殊車両・牽引車等農業生産に係る車両運転整備技能並びに免許を取得できる科目を設置する。	当初計画のキャンパス予定地（静岡県沼津市）から、既存の深谷キャンパス（埼玉県深谷市）での学部再編に計画変更をすることになったため、新たに埼玉県、深谷市において自治体、農業協同組合、農業法人および地元病院との連携体制の構築する。深谷市とは令和7年3月に協議を行い、深谷市の施策である「農業と農業の人材育成」に大学の教育研究力が参画することに高い意義があることを理解し、地域の農業生産者、農業協同組合、農業法人、スマート農業（アグリテック深谷）、農研機構との連携、実習農場の確保を含めた全面的な連携、協力を得ることとなった。今後農学部として、深谷市の進めるDX農業、フードリビューチェーンを含めた農業課題解決のためのプラットフォームであるDeep Valley計画に参画する。医療系の連携としては、深谷市においてすでに深谷赤十字病院と教育連携を行っており、連携の拡大により食品、栄養、そして医療などの教育学習機会を設ける。申請時計画に合った深谷工業大学との教育研究連携については、本学が協力して埼玉工業大学に設置した医療工学系大学院において令和8年には最初の入学生の学位授与となる予定で進んでいる。今後農学教育研究についての連携協議会を設ける。大型特殊車両・牽引車等農業生産に係る車両運転整備技能教育については、今後市内の自動車学校もしくは近隣の自動車大学校と協議し計画に沿った教育体制を整える。	キャンパス設置場所の変更により地元自治体や企業等との連携は再構築が必要となったが、変更後の深谷市は自治体や医療機関ではこれまで医療教育、臨床実習研修、卒業生就職などの太い関係がある。農学部設置についても、自治体は農業振興と農業人材育成が政策の一つであることから直ちに協力について理解が得られ、今後新たな連携体制を構築していく。特に深谷市が力を入れて取り組んでいるアグリテックの分野での連携を目指していく。これまで訪問、視察してきた企業等とは引き続き連携体制について協議を進めていくが、提携大学院を運営している埼玉工業大学については地理的にも当初計画からはかなり近くなったため、むしろ連携しやすくなった。キャンパス予定地の変更に伴い、企業や自治体との教育あるいは卒業生の就職先などにおいての連携を新たに構築することになったが、本学の創立の地であり自治体とも協力して大学が運営されてきたこともあり、良好な関係を維持して新学部設置を推進できる。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a. 入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜では、情報を含む文系科目のみの選択による受験も可能として、入学後にリディアル教育で化学、生物など理系の学識を補完する。総合型選抜、社会人選抜では農業生産への意欲と応募者の特性を評価する。女子学生確保については、女性にも関心し農業生産の教育を充実させ、性差医療と食物、化粧品と食品とその生産、美容食品、抗加齢、さらに農業生産者のための健康・美容法など女子に興味の高い必修および選択科目を設置、アパレル企業と提携して農作業の女性用作業服を開発、作業後の清潔のための温泉入浴施設(既存施設の有効活用)を含むキャンパスアメニティーの充実、さらに男女共同参画の校園と教育を行い「農業女子」を育成する。社会人の受け入れには、卒業大学での単位取得、社会経験などを考慮した履修科目の調整、就労しながらの学修の利便性（夜間あるいは休日授業）、修業年限の延長などにより社会人が学位を取得できるための自由度の高い教育プログラムを提供する。さらに多様な入学者の確保について、学内他学科からの編入など、入学後の進路変更にも柔軟に対応する。	高校へのアンケート調査、訪問調査などを通して、現在の普通高校、あるいは農業高校生徒が農学部に進学する意欲、興味なども含めて、教育方針、カリキュラム、入学者選抜、女子高生の確保、地域初等中等教育との連携、社会人学生強化に向けた取り組みを行っている。入学者選抜については、多様な普通科、農業高校、社会人が農業実習を学びにくくすることを考慮し、国語、理系、情報系の科目の基礎を理解していることを評価する一般選抜、農業高校にて特長のある能力を持った生徒が入学者指定校特別枠の入学者選抜を検討している。「農業女子」の志望者を増やすため、入学後の食品系、栄養系のコースを運べるカリキュラム、園芸、フーズデザイン等女性が興味を持ちやすい科目の設定、そして農業における美容などのカリキュラムをカリキュラム検討会議で検討している。初等中等教育との連携は本学にコミュニケーション学部看護学科がすでに深谷第一高校の選択科目2単位を看護学として行っているが、今後農業高校を中心として、より高度あるいは未来型の農業、栄養学教育連携を通じて、あるいは地域の健康フェスティバル等リ中学生も対象とした食品や食物関係の体験教室などを通じて社会貢献だけでなく、将来の学生確保にも役立てる。栄養、調理などの社会人、専門学校生の入学における単位認定制度を設ける方針で計画を進めている。	今後10年で18歳人口が急激に下がることは、全国共通、とくに地方においての学生確保で問題となっている。普通高校の大学進学率は約60％が上乗額となっているため、普通高校の卒業生の確保は困難が予想される。しかし、例えば多くの農業大学で入試科目となっている英語を必須科目から外すことなどの入試科目の見直しで門戸を拡げる。一方農業高校の大学進学率は、とアパリーグに行った高校では総じて20～30％であり、農業高校卒業生にも魅力あるディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムを組み単位を授与することにより多くの農業高校卒業生を引きつけることが出来ると考えられる。農業高校だけでなく、普通高校の女子は食品、調理、栄養に興味を持ち、「土から口」を学び、女子のキャリアにつながるコース、選択科目を設け、さらに食農栄養における女性のライフスタイル、美容、健康を学ぶことができる特色ある教育を構築する。18歳人口が減る中で、社会人、学生、大・高校生などのリカレント、リスキリング、あるいは単位修得のカリキュラムをつくることで、多彩な入学者を確保する。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東都大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
実施状況報告書留意事項（R6年度）	当初に計画していた教員（学部長候補者）の確保に遅れが生じている。学部長候補者を早期に選定し、学部設置に向けた検討を進めること。	令和7年3月に正式に学部長候補者の内諾を得、令和7年度は非常勤教授として設置準備、設置申請を進め、令和8年度から専任教授として開学準備を進める。

大学名	東都大学
-----	------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	東都大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	520	518	518																
		入学者数	人	421	328	392																
	その他の学期	入学定員	人	***	***	***																
		入学者数	人	***	***	***																
	入学者合計	入学定員(A)	人	520	518	518																
		入学者数(B)	人	421	328	392																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	0.81	0.63	0.76																
	収容定員等	収容定員(C)	人	1940	2082	2084																
		編入学定員	人	***	4	4																
		在籍者数(D)	人	1637	1619	1559																
		編入学者数	人	***	0	1																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	0.84	0.78	0.75																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		8,883	1,332,325	324,165	97,097	73,824	59,250	735,833												
項目	単位																				
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得 額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の 平均）(E)	千円			165,029																	
本事業による助成金の額(F)	千円			1,192,113																	
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円			194,832																	

特記事項